

【 特別養護老人ホーム あわじ荘 】

<サービス評価実施日：平成22年1月29日>

施設の概要	施設名称等	<p>特別養護老人ホーム あわじ荘 (定員 110名) 〒656-1727 兵庫県淡路市野島貴船229-1 TEL 0799-82-1950 FAX 0799-82-1754 昭和49年10月1日 開設</p>
	施設長名	謝 世業
	基本理念	<p>一人ひとりを尊重し、自らの意思と責任でその人らしい生き方が できるよう支援します 総合的な地域ケアのしくみを築き、福祉文化の創造を目指します ニーズを敏感にとらえ、先駆的な実践により社会に貢献します 福祉の心と高い専門性を育み、働きがいのある職場をつくります 公正・効率的な組織運営と安定した経営基盤を確立します (兵庫県社会福祉事業団憲章)</p>
	居室	居室88部屋 (1人部屋56室、2人部屋32室)
	併設事業	<p>短期入所生活介護 (介護予防含む) 障害者短期入所事業 認知症対応型通所介護 (介護予防含む) 居宅介護支援</p>
特徴的なサービス事例	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業団憲章が基本理念として明記されており、職員の倫理綱領や運営方針に繋がっている。 ・ OJT研修にも力を入れている。 ・ 専任の理学療法士を配置している。 ・ ターミナルケアに取り組み、家族が付き添い、宿泊出来る部屋が確保され、長期間の滞在も受け入れている。また、職員支援も含めた対応がなされている。 ・ ケアプラン会議に利用者が参加し、希望を取り入れられるように努めている。 ・ 園芸学校との連携により、実習生も受け入れ、四季の花々が楽しめる環境が整えられている。 ・ 家族の訪問も多く、入居者の誕生日にはほとんどの方が家族と共に食事会 (お誕生会) をされている。 ・ 地産地消を心がけた献立作成に努めている。 ・ 食事検討委員会においては一部の利用者の方も参加されている。 	
施設全体の総評	<p>震災後、現所在地に移転建て替えされ、リハビリ器具も整備され、設備も充実されている。 立地条件も自然に恵まれた静かな環境にある。 近くには園芸学校があり、そこから学生ボランティアが利用者と共に園芸療法に積極的に取り組み、四季折々の植物が鑑賞できる事が評価できる。</p>	

今後は、兵庫県社会福祉事業団憲章を基本に、全職員に周知徹底され、さらに素晴らしい施設になることを期待する。

受け入れ施設による評価後のサービスの質の向上に向けた取り組み

(1) サービス評価事業をうけ、次年度につなげていきたい項目、課題について

①基本理念は全ての職員に周知徹底し、介護サービスに十分活かされていますか。

社会福祉法人としての基本理念である事業団憲章と職員倫理綱領を定め掲示、カード携帯し、朝礼や職員会議時に唱和している。また、施設としての運営方針を定め、掲示しており、大半の職員に意識付けが出来ていると考えているが、年度中途の採用者が多い中、運営方針に基づいたサービスの提供ができていないか認識に個人差がある。

職員会議、職場研修を通じて意識の徹底を図っていきたい。

②身体拘束を行わないための職員研修を実施し、全職員に周知徹底していますか。

身体拘束防止委員会を設置しており、改善のための検討はされている。同意書、記録を取るなど諸手続も整備しているが、身体拘束にかかる職場研修は、年度当初の新任・転入職員での実施はしているものの全職員を対象としたOJTは十分な研修内容とは言えないため、計画的、効果的な研修を行い、全職員の意識を高めていきたい。

また、家族が本人の安全のために拘束を希望される場合が多いが、どう理解をしてもらえかが課題である

③利用者の希望を取り入れられた献立づくりがされていますか

従来の選択メニューから、全食型個別メニュー（食材、調理方法、食事形態等を変えた食事等を含む）に変え、全利用者対象に個々の嗜好、摂食状況に応じた食事提供に取り組んでいる。

利用者の代表者が参加する食事検討委員会を定期的で開催し、食事に関する意向を聞き、要望を反映させている。

調理関係者による利用者の摂食状況の把握、嗜好調査の実施を行っている。

バイキング食等利用者が目で見て選択できるメニューも必要との意見も多い。

④利用者・家族の希望があれば施設内で積極的にターミナルケアを行っていますか。

主治医の意見書に基づき、家族の意向の確認を行い同意書をもっている。ターミナルケアプランを作成し、プランに添ったケアを行っている。

全職員が意義を理解しているか疑問がある。終末ケアに関する研修等は、新任研修等のプログラムにはあるが、全職員を対象とした実践的な研修が必要である。（精神的なケア含む）

宿泊して看取られる家族もおられるが、もっと家族に対する配慮、支援が必要である。

⑤利用者の自立支援をめざした利用者個々の意向に沿った支援がされていますか。

過去の生活歴を聞き取り、音楽、書道、園芸など趣味活動を行っている。

外出支援を利用者の希望に応じて積極的に行っている。

本年度は、新型インフルエンザ等の予防対策を優先しているため、個別外出の機会はこれまでとは異なり少なくなっている。

趣味活動などメニューが多くなく、ニーズに十分対応できていない。
外出支援など、もっとボランティアを育成し、活用することで支援を拡大できるのではないかと意見が多かった。利用者個々の意向の聞き取りは十分とは言えない。
職員が積極的に利用者を知ろうとする、前向きな姿勢があればより意向の確認ができるのではないかと意見も出されている

(2) (1) の項目についての具体的な方法について

① 今後は、中途採用者のオリエンテーションに基本理念の講義を取り入れると共に委員からの助言もあつたように、事業団経営理念、施設の運営方針、処遇方針、施設サービス計画、ケア実践一連の循環として、職員一人ひとりが認識できるように取り組んでいきたい。

② 全職員への資料配付とともに計画的に職場研修を実施していくこととする。

③ 栄養マネジメントに基づく、個別メニューの推進を進めていくと共に、行事として、外食メニューの日やバイキング食を実施することとする。

④ ターミナルケアに関する職場研修を強化すると共に要望に対する医師、看護師との連携により、積極的な受入を進めていく。

⑤ 利用者ニーズの聞き取りをすすめ、趣味活動や外出ボランティアの募集、育成に努めていく。